

令和5年度第4回県南西部地域医療構想調整会議 議事概要

日時：令和6年3月14日（木）14:00～15:20

場所：岡山県備中県民局会議棟第1・2・3会議室

【挨拶 備中保健所長】

- ・委員の皆さま方におかれましては、当地域・当圏域の保健医療の推進につきまして、様々にご尽力をいただき、厚くお礼申しあげます。
- ・この3月1日で任期満了ということで委員の更新があり、新しい任期での初めての会議となっている。この度、新たに委員にご就任くださった方、また引き続き委員をお引き受けくださった方、本当にありがとうございます。今後とも人口減少あるいは高齢化などが進む中で医療提供体制に係る中長期的な状況や見通しなどを踏まえて、質の高い医療が効率よく提供される体制の整備、また地域包括ケアシステムの充実等に向けてご意見をいただきたい。
- ・本日の会議は、倉敷市立市民病院から「倉敷市立市民病院経営強化プラン」の説明をいただく。また「病床機能再編に伴う基盤整備事業等について」を、さらに医療機関から提出された「対応方針について」を説明させていただき、ご意見をいただくようになっている。限られた時間だが、どうぞよろしくお願いいたします。

【議事】

1 公立病院経営強化プランの策定について（倉敷市立市民病院）

倉敷市立市民病院から、作成資料に基づき説明

[質疑・意見等]

委員	・新型コロナウイルス感染症に対しては、院長筆頭に素晴らしく協力的にやっ ていただいて感謝している。特に家族室等を有効に使っていただき、家族で入院 できたり感謝している家族は本当に多い。やはりこういう病院はきちんと残って いただきたいと痛感した。
委員	・先ほどの意見と重なるが、新型コロナウイルス感染症について、2020年の2 月から今に至るまで、沢山の患者を見島地区のみならず倉敷全体の入院対応をし ていただき、本当に助かった。このことに関しては市民病院の頑張りに本当に感 謝している。 ・病床利用率のことだが、大体30床が産科病床で使えないままで、168床で7 0%～80%くらいの利用率、全体としては70%弱くらいの利用率とのことだ が、これからもこの形でいかれるのか。
倉敷市民病院	・入院患者をいかに確保していくかの問題が一番大きいと思っている。ただ入院 させるだけではいけなくて、当院は急性期と、二次救急までを請け負うというこ

とで、全体の入院患者数の検討だけでは不十分だと思うので、各病棟の機能について検討しており、その機能において、きちんと運営できているか評価しながら、稼働率を上げていくことを考えている。

・元々、4東病棟を女性専用の病棟にしていたが、お産をしっかり安全安心にやっていきたいという伊東市長の思いもあり、お産をこれからも今まで以上にしっかり受けていこうということで、ここをお産メインの病棟にすることを先般決めた。そこで、ここの30床は、お産業務を中心に行うので、母親学級で使ったり、研修会などに利用し、この病棟を上手く活用していきたい。よって当面はこの30床を運営上、病棟稼働率として数えないで運用させていただき、実質的には198床から30床引いて168床で運用してゆくということになる。

・3階から6階が病棟になっている。3階西に外科系の急性期が36床、4階西が内科の急性期として40床あって、3階東の40床と6階の20床の計60床が地域包括病棟です。6階の20床は新設時には緩和ケア病棟として運営しようと思っていたが、20床全てを緩和ケアだけでの運用とするのは経営上非常に難しくなり、今は緩和ケア病床として確保してきちんと運営しながら、検査入院とか他疾患も診ている。

・また、5階東に32床あるが、ここがコロナ病棟として非常に活躍した。まだまだコロナは終息していないので、今日も救急車で施設からコロナ患者を受け入れたし、自治体病院としては、これからも引き続きしっかりコロナ診療を続けていきたいと思うので、ここに感染症患者のほか、混合病棟として急性期病床の調整機能をもたせて使いながら、小児医療を南側の日当たりのいい所に小児病床を確保して、小児科、混合病床、コロナ病床等として活用していくように考えている。そうしてくると機能的には、各病棟が必要な病棟なので、頑張って7割の稼働率をキープできるように頑張りますので、ここは認めていただきたい。

委員

先ほど今日もコロナ患者の救急を受け入れたとのことだが、救急の受け入れ患者は一日平均どのくらいでどの程度の重症度とか、今即答できることがあるか。

倉敷市民病院

・年間で救急車を1000件以上は絶対受け入れようという目標を立てている。医局としては、夜間に一人しか当直医がいないので、私が平日は午後9時30分まで内科診療のバックをしている。外科の当直医の場合は内科の患者は取れないとかいろいろ事情があるが、平日の日中は要請に対して7割8割は受けているような状況です。常勤医師が外科医4人、内科医が4人プラス後期研修医2人、整形外科医2人という状況の中で、できるだけ受けたいが、やはり重症度について、例えば心筋梗塞であるとか脳卒中の急性期で、高度な処置が要る症例については倉中か川大に最初から行くってということで、それ以外はできるだけ二次救急までは受けて、そこで交通整理をしているという感じである。

委員	<p>・医師の人数が少ないので、それが精一杯かもしれませんね。なかなか難しい。特に働き方改革があるし、ただ児島は、児島中央が救急取らなくなったので、余計にそちらの病院に負担がかかると思う。医師の派遣は岡山大学病院からだけか。川崎医科大学とか他の所からは。</p>
倉敷市民病院	<p>・川崎医大の先生が外勤では一人来てくださっている。あとは全部、岡山大学病院からの派遣を頼んでいるが、前は一泊二日に来てくださっていたが、大学病院からは宿直はできませんってことで、当直については外に任せず、全部当院の医師で賄っている。</p> <p>結構当直は大変になる。ただ救急を取らないと、経営が成り立たないので、どこまで救急を頑張って取るかっていうところだが、医療事故があっても駄目だし、当院が出来る範囲のところを、常にみんなと医局と相談しながらしている。3ヶ月に一回の周期で、児島地区の救急隊の代表の人といろんな問題点を医局会で相談しながら、どうしたら上手く救急が回るかを検討しながらやっている。</p>
委員	<p>職員数について、今より増員の計画はあるのか。</p>
倉敷市民病院	<p>人件費が非常に厳しい。増やせば増やすほど人件費率が60～70%近くになり、この人件費だったら経営は成り立たんでしょうっていうレベルに達してしまう。今は新しく雇うっていうことはしないで、辞めていった時に、追加するかどうかよく吟味して、足りないなら補っていくということにしている。お陰様で、前は看護師を募集しても来てくれない時期もあったが、新しい病院になってから、募集したら随分応募があるので、その中から優秀な人材を集めて、選んで来ていただくようにしている。医師の増員はしたいが、医師の増員は難しい。コメディカル、看護のところは、今のところは増員せずに、人材の能力を高めていくというやり方でやっている。</p>
委員	<p>その看護師の募集というのはハローワークあるいは業者とかになるのか。業者が入ると、凄いコストがかかり、それによって潰れた施設とかいっぱいあるので。</p>
倉敷市民病院	<p>お陰様で当院は公募です。業者が一切入ってなくて、公募で来ていただける人を選んで雇っている状況で、その辺のコストはかかってないのはありがたい。</p>
委員	<p>今までコロナの病床の確保で少しづつは補助金があったと思うが、今後それが無くなった時に、どれだけ赤字が出るとか試算されているか。</p>
倉敷市民病院	<p>病棟で、136人/日を、今の入院診療単価で、入院していただくことになれば、黒字が出ると試算している。ただ130人足らずで今年は推移しそうなので、1</p>

	億ぐらいの赤字が出るということになっている。来年度は140人を目標にして、最低135～6人ぐらいを確保して、診療単価を上げて何とか黒字を確保したいと考えている。
--	--

2 病床機能分化・連携促進のための基盤整備事業等について 【非公開】

3 地域医療構想を踏まえた対応方針について 【非公開】